

ウマノスズクサ と ジャコウアゲハ

ウマノスズクサ

葉



花



実



「ウマノスズクサ」には、「アリストロキア酸」という強い毒性をもつ物質を持っています。「ウマノスズクサ」はこの毒を作ることで、昆虫による食害から身を守っていると言えるのです。

ジャコウアゲハ

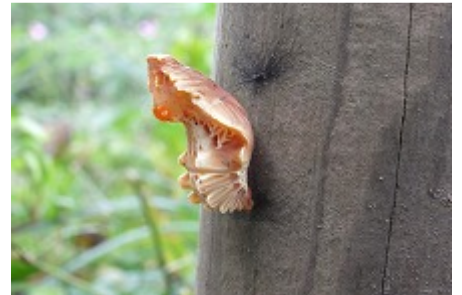
成蝶



幼虫



「お菊虫」と呼ばれる蛹



幼虫がいっぱい



驚くことには、「ジャコウアゲハ」の幼虫はこの「ウマノスズクサ」の「アリストロキア酸」をせっせと食べて、体内に蓄積して小鳥などの天敵から身を守っている、というのです。成虫である「ジャコウアゲハ」の体内にもこの毒物があるので「鳥も食わない」そうです。

さて、今年、園内にある「ウマノスズクサ」の葉の裏に「ジャコウアゲハ」がせっせと卵を産み付けていました。その卵から孵った幼虫が、一斉に「ウマノスズクサ」の葉をモリモリと食べ始めたから大変です。ただでさえ葉が減っていくのに、この幼虫は蛹になる寸前の終齢になると、ほかの幼虫が食べないように「ウマノスズクサ」の茎を齧り切って、その先の葉を枯らしてしまう習性が

ありますから「もっと大変」です。葉が少なくなった時までに蛹になっていなかった幼虫が、茎の先端に集まっていました。最終的には、蛹にまで到達した幼虫はほとんどいなかったのです。

なんとか蛹になったら、この姿で越冬して来年の春になってようやく羽化・成蝶になります。あんなに沢山の卵を産んだのに結局成蝶になれたのは2～3頭だった、という結果になりそうです。